

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	24-404	佐賀県医療センター好生館 角南隆史 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)		
Overview of Alcohol Use Disorder アルコール使用障害の概説		
執筆者		
Henry R Kranzler		
掲載誌		
Am J Psychiatry. 2023 Aug 1;180(8):565-572. doi: 10.1176/appi.ajp.20230488.		
キーワード	PMID	
アルコール使用障害、薬物治療、治療薬、心理社会的治療	37525595	
要旨		
<p>アルコールは世界のほとんどの地域で常飲されており、米国でも12歳以上の人口の約半数が常飲している。大量飲酒も一般的で、米国では年間14万人以上が死亡し、医学的、精神医学的、社会的にさまざまな悪影響をもたらしている。アルコール使用障害 (AUD) は、現在の米国での有病率は11%である。しかし、AUDは十分に治療されておらず、生涯診断を受けている人のうち、何らかの治療を受けている人は15%未満である。AUDのリスクは遺伝的なものと環境的なものがほぼ等しい。AUDは認知行動療法や動機づけ面接などの心理社会的治療に適している。アルコールは複数の神経伝達系に影響を及ぼすため、AUDに対する薬物療法も有効である。米国でAUD治療薬として承認されているジスルフィラム、ナルトレキソン (経口剤および長時間作用型注射剤)、アカンプロサートの3剤は、臨床診療ガイドラインでは第一選択薬とされているにもかかわらず、処方数が少ない。AUD治療薬として承認されていないトピラマートとガバペンチンの2つの薬剤は、AUD治療に有効性を示しており、適応外で使用されている。幻覚剤とホスホジエステラーゼ-4阻害剤を含む新規薬剤候補の最近の研究は、AUD治療のための有望な追加薬であるが、臨床使用にはさらなる評価が必要である。AUDに対する効果的な心理社会的・薬理的治療が利用可能になってきているにもかかわらず、AUDは依然として非常にスティグマ化された疾患である。高精度の治療法を含め、AUDの診断と治療を強化することを目的とした研究は、AUD治療の受容性を拡大し、AUDに罹患している患者とその家族に利益をもたらす、AUDに関連するスティグマを軽減する可能性がある。</p>		